

「点検・評価シート」【10事業】について

令和2年度 教育行政方針における重点項目に基づいた主な事務事業・施策に関して、学校教育部及び社会教育部所管から各5事業を選定し「点検・評価シート」を作成しました。

○点検・評価シートの記載要領

「点検・評価シート」で選定した10事業は、17ページから27ページの学校教育部及び33ページから40ページの社会教育部の『第2「令和2年度 教育行政方針」に基づく管理及び執行状況の評価』の内容に含まれていますが、令和2年度における主な事務事業・施策として、さらに詳しく「具体施策(Plan)」「実施状況(Do)」「評価検証(Check)」「今後の方針(Action)」のPDCAサイクルの視点で自己点検及び評価を行うものです。

なお、下記のとおり、①実施状況の欄には、数値化が困難な事業を除き「成果指標」を盛り込むように努めるほか、施策の目標達成状況については、②「評価検証」の欄に「成果」と「課題」に分けて検証することとしています。

① 実施状況(Do)欄の「成果指標」について

「成果指標」とは、施策を実施することによって、どのような成果が生み出されるかを明確に示すための指標で、当該施策の目的がどこまで達成されたか、または、さまざま活動を経て最終的な目的に対してどの程度近づいているかを数値で表す指標です。

事業によっては異なる視点で成果を判断した場合、複数存在することもあるため、優先度が最も高い指標を設定することとし、成果指標に関連して、目標値、実績値、最終目標値、目標年度などを適宜記入することとしています。

【成果指標の例】

公民館事業 → 公民館利用者数

図書館運営管理事業 → 蔵書数貸出回転率

② 評価検証(Check)欄について

平成26年度まで「妥当性」「有効性」「効率性」「公平性」の4つの視点で、「1点」=低い(改善等が必要)、「2点」=普通、「3点」=高い(現状が最適)の3段階の評価点数を記入して検証してきましたが、検証結果をより分かりやすくするために、「成果」欄と「課題」欄に分け、具体的に記入する方法に変更しました。